

COVID-19 感染透析患者の外来隔離透析の実際

医療法人衆和会 長崎腎病院

○中島陽子 浦川麗加 久保純子 中村麻美 船越 哲

【背景】

本邦では2022年初頭に感染力の強いCOVID-19オミクロン株が出現し、COVID-19新規感染者の数は増減を繰り返し、透析患者における感染者も増加し透析医療の継続に影響が出ている

【目的】

COVID-19 新規感染者に対する統一した対応を目的に、当院独自のチェックリストを作成し、外来通院隔離透析できたかを検討した

【対象】

2022年7月～10月(第7波)中にCOVID-19感染者となり、隔離透析を行った血液透析患者

【方法】

1. COVID-19感染者、チェックリストを作成
2. 隔離透析ベッドの確保
3. 通院手段の調整: 患者の通院方法の確認
4. 病院到着時間を10分毎に設定、到着時間表の準備及び駐車場スタッフとの連携
隔離対応スタッフの配置

検査抗原定量検査(ルミパルス)を適宜実施し、数値によって隔離解除を検討

採血・透析前後SPO2測定その他、患者状態に応じて胸写・胸部CT撮影

【結果】

64名(外来隔離透析患者35名・入院患者29名)において隔離透析を行った。病院内での情報共有が円滑にでき、COVID-19感染者を外来通院のまま透析を実施することができた。外来隔離透析患者のうち7名が肺炎の所見と呼吸器症状の悪化・自宅での療養が困難となり当院入院となったが、チェックリストの運用で、混乱することなく対応できた。

【考察】

チェックリストを作成することで職員間の共通認識が得られ、円滑に外来隔離透析が実施できたと思われる